カトリック 仙台教区報

2014年3月2日　No.216
発　行
カトリック仙台司教区
〒980-0014
仙台市青葉区本町 1-2-12
Tel(022)222-7371 Fax(022)222-7378
発行責任　広報委員会
URL http://sendai.catholic.jp/

仙台教区新生へ、８地区で出発

地区制が目指す基本的な考え

司教　マルチノ　平賀　徹夫

1　仙台教区の宣教司牧の働きは教区全体（司祭団・信徒・修道者）で**交流し・協力し・連帯を強める**ことを意識したものへと成長させたいと思っています。

小教区教会は教区の細胞であり信徒一人ひとりの所属する母教会として大切な場ですが、司祭も信徒も、その小教区だけの内向きな意識ではなく、隣の教会そして「地区内の全小教区も合わせて私達の教会」と考える、ひいては「教区が私たちの教会」という意識にまで高めたいのです。

2　地区数を8へと少なくしたのは、**地区は複数の司祭で担当**していただきたいからです。司祭方にとっては他の司祭と協力して事に当たる、というのは容易ではないかもしれませんが、信徒・修道者からの協力を得るためにも、司祭同士の話し合い・協力の姿勢を「しるし」として現すことを目指していただきたいと思います。司祭方は必ずしも共住となることは考えていません。

3　宣教司牧の第一は、可能な限り多くの信者が秘跡、特に**主日のミサに参加できるように**配慮することを考えています。「典礼は教会の活動が目指す頂点であり、同時に教会のあらゆる力が流れ出る源泉である（典礼憲章10）」からです。司祭方には小教区を移動して回るご苦労をお願いすることになるのですが、

①主日にはできるだけ多くの小教区（教会）でミサがあるようにする。

②各教会でのミサ時刻は地区内全小教区の信徒・修道者との話し合いで調整する。（主日の前晩のミサの可能性も考える。）

③ミサ時刻の調整にあたっては、地域の今までの流れ等を尊重する必要があるが、同時に新しい可能性への挑戦をできるだけ探る。

④集会祭儀はミサができないときの礼拝集会である。集会祭儀執行の準備（養成）をしっかり行い、修道者の参加も求める。

4　地区は宣教司牧の第一の現場ですから、司祭間で地区での**宣教司牧に関する報・連・相の話し合いを定期的に**できたら良いと思います。同様に地区内の司祭・信徒・修道者の連絡会議を定期的に開くことも必要です。

5　司祭は**信徒使徒職の働きを支え**、また、外国からの信徒の移住移動者との関わりにも力を入れ、協力してあたることが望まれます。

6　地区内の事業所は宣教の現場であり、教会と社会との大事な接点であるとの共通認識を持ことが大事です。

①地区内のカトリック関係の全事業所への関わりを考え、そこで働く人々（信徒・非信徒）を励ます働きを心掛ける。

②大震災の復興支援活動（4→6，45）に沿って、各ベースの活動への支援と参画を心掛ける。

7　地区全体が宣教司牧の場ですから、**司祭は**居住する小教区だけでなく**地区内全教会を等しく担当する**意識を共有し、信徒にもその認識を深めていただく必要があります。

8　地区制が地区の皆さんに浸透していくためのお願い。

①地区の全体集会を開催するように努める（年に1～2回程度）。

②各地区では、司教の地区への司牧訪問の機会が多くなるように計らっていただきたい。

・堅信式は地区内合同で。

・地区内合同の典礼の機会を。

（編集部要約・関連記事4 p.～6 p.）

生命の泉

次年度から4県にまたがる我が仙台教区を8地区に分け、各地区に地区長をおき、そこに複数の司祭が協同で司牧にあたることになった。一教会に一人の司祭という派遣の仕方が出来なくなったからだ。これまで信徒は信仰を守りながら、司祭から司牧にかかわるサービスを受けるというものだった。これが、有効に機能してきたが、昨今では難しくなった。この組織はもともと内向きだった。この方法を見直さなければならない。なぜなら「キリストの弟子」は増えないからだ▼教会が始めた事業は教育や福祉事業は順調に推移し、社会の一定の評価は得られており、その事業の継承者は信徒が増えている▼第二バチカン公会議が始まると「福音の土着化」ということが盛んに言われた。そのころ、ロゲンドルフ師（イエズス会）は「日本における宣教はキリスト教のシンパになれば成功としなければならない」といった▼私たちの事業をシンパに継いでもらわざるを得ないのだろうか。シンパは日本の風土に溶け込み、時代と人と価値観を共有してイエスの良さを知ってもらうという手法を取るに違いない。そんなことで事業がうまくいってもイエス様は喜びはしない。なぜなら、「私が地上に平和をもたらすために来たと思うのか。…むしろ分裂だ」（ルカ12・51）、「あなたがたは神と富とに仕えることはできない」（マタイ6・24）、「『主よ、主よ、』と言う者が皆、天の国に入るのではない」（マタイ7・21）▼みことばは私たちの考え方を後押しはしない。むしろ承服できないみことばは行って知るものだ。いつもカトリック家庭も事業所もみことばの実践の場なのだ。親切な司牧者が神様の所まで連れて行ってくれるわけではない。

（守）

２０１４年度・司祭異動

平賀徹夫司教は、仙台教区の地区制を4月から発足することに伴い、1月27日付で地区ごとの司祭派遣を発表した。

◎印は区長　（　）は前任地

地区ごとの小教区はP.　3参照

第1地区（青森県西部）

◎首藤 正義、ポール・トー

第2地区（青森県東部・岩手県北部）

◎佐藤 修、佐々木 博、デ・ラ・ロサ・マルコ・アントニオ

第3地区（岩手県中部）

◎ヴァレラ・ミゲル、バサ・イグナシウス、コンディ・ニコラウス、田中 丈夫（白河、須賀川、矢吹）、ツゲル・アントニオ〈協力〉

第4地区（岩手県南部・宮城県北部）

◎川崎 忠紀、佐藤 守也、高橋 昌、ガクタン・エドガル（淳心会本部）

第5地区（宮城県中央・北・東部）

◎會津 隆司、森田 直樹、ラトゥール・レイモン、川井 啓〈小教区管理者〉、土井 勝吾〈協力〉（築館、新生園）、小松 史朗〈協力〉

第6地区（宮城県中央・南・福島県北東部）

渡辺 彰宏、ゴンザレス・ホセ、狩浦 正義、ボルデュック・エメ、ロワゼル・ジャン・シャルル〈協力〉（ケベック会本部）、小野寺 洋一〈協力〉

第7地区（福島県北部・西部）

◎舟山 亨、パヴェレツ・トマス、ヴィドムスキ・イエジ

第8地区（福島県南部・東部）

◎板垣 勤、フォリッシュ・チェスワフ、エテメ・メヌンガ・エミル・ロドリグ（仙台中央地区）

移住移動者担当（居住は、復興支援石巻ベース）

ゲストヴェオ・ギャリー

教区外

ハルノコー・アントニオ〈淳心会本部（姫路）〉（大船渡、釜石）

ガブリ・ジャン〈ケベック会本部（東京）〉（弘前、黒石、五所川原）

モンロイ・ホセ〈帰国（メキシコ）〉（盛岡地区、花巻）

レヴィイエ・アンドレ〈帰国（カナダ）〉（三沢）

小教区以外

司教館　小野寺 洋一

司祭の家　鷹觜 達衛

仙台教区サポートセンター　小松 史朗

地区制度の出発

司教　平賀徹夫

この４月から仙台教区は教区全体で「地区制度」の形をとって進んで行きます。ほとんどの方にとって初めてのことですから、教会活動あるいは信仰生活上、今までとは勝手が違うということもあったりして戸惑いを感じられることもあるかもしれません。でも大丈夫、それも慣れるまでの事です。ただ、「わたしたちは神の民」という典礼聖歌がありますが、教会には余分な人などいませんから、自分も、また、どのような人も、一人一人、神の民・教会の大切なメンバーであることの自覚をもって、積極的に関わっていただく必要があります。

仙台教区は８つの地区に区割りされ、各地区に複数の担当司祭が派遣されました。その司祭方と地区内の信徒・修道者の皆様全員が地区という教会共同体の構成員です。祈りによって互いに結ばれて、小教区教会間や人と人の間の絆・つながりを強め、話し合いながら、喜ぶ人と共に喜び、また、必要な分担や犠牲も分かち合う精神を培い、実行していきましょう。

これは教会の“仲間うち”の間だけの事ではありません。私たちは東日本大震災という大変な苦難を体験しました。その中でも、日本全体そして全世界から、国民や信条の違いを越え、善意以外の何物でもない支援の手を差し伸べていただくという心打たれる体験をしました。あれから３年になります。時間の経過によることか、この間に何度も日本でも世界でも大変な自然災害や人災が起こったからなのか、東日本の被災地支援ベースで求められるボランティアの数が激減しました。今もって仮設住宅に住まざるを得ない人々が大勢おられます。仙台教区としての支援活動の柱である「４→６・４５運動」とも相まって、祈りによる支援とともに、できる方は寄り添いのボランティア活動にも参加していただけたらありがたいです。仙台教区の８地区のほとんどに沿岸被災地が含まれてもいるのです。

司教日程　3月・4月

3・1(土) 聖公会東北教区主教座聖堂礼拝堂祝別式
2(日) 青森県連絡協議会（第1・2地区）
3(月) 青森明の星高校
4(火) 教区司祭団役員会
6(木) 社会司教委員会
8(土) 福島県連絡協議会（第7・8地区）
9(日) いわき教会
10(月) 司教団3・11記念ミサ サポート会議
11(火) （東日本大震災記念）宮古教会
13(木) 子どもと女性の権利擁護デスク
15(土) 原町教会
16(日) 教区第4地区集会
17(月) 部落差別人権委・事務局会議
18(火) 仙台白百合女子大、教区財政評
20(木) カト学法理事会
21(金) 教区宣教司牧評議会定例会
24(月) 教区司祭団責任役員会
28～30 部落差別人権委・春季合宿
4・3(木) 仙台白百合女子大
8(火) 部落差別人権委・定例会
15(火) 司祭評・役員会、教区司祭団・役
16(水) 聖香油ミサ
17(木) 主の晩餐
18(金) 主の受難
19(土) 復活徹夜祭
20(日) 復活の主日

出向（横浜教区）　和野 信彦

療養　氏家 和仁

仙台教区本部

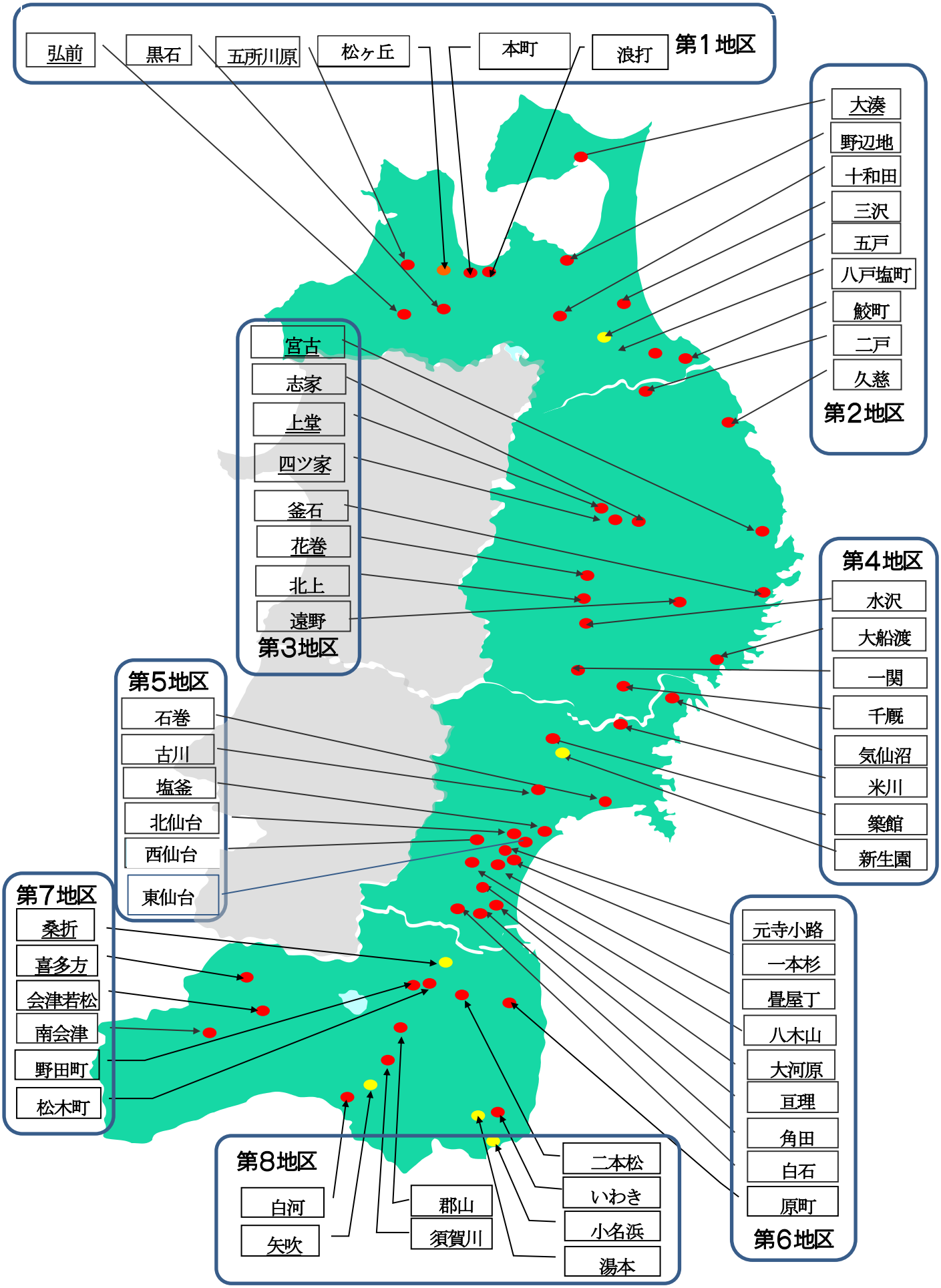
教区長　司教　平賀 徹夫

司教総代理　小野寺 洋一

教区事務局長　小松史朗

教区会計　小松史朗

カトリック仙台司教区　地区割り図



仙台教区地区割　一覧

地区	司祭	地域	教会	信徒数	修道院	教育施設	その他の施設
5	4	宮城中央・北・東部	古川	109	シャルトル聖パウロ修道女会 紫山修道院･泉修道院 ドミニコ女子修道会 仙台修道院 北仙台修道院 青野木修道院 中島丁修道院 オタワ愛徳修道女会 東仙台修道院 善き牧者の愛徳聖母修道会 聖パウロ女子修道会 大阪聖ヨゼフ宣教修道女会 ラ･サール会	仙台白百合女子大学 仙台白百合学園小学校 仙台白百合学園中･高等学校 仙台白百合学園幼稚園 聖ドミニコ学院小学校 聖ドミニコ学院中･高等学校 聖ドミニコ学院北仙台幼稚園 聖ドミニコ学院幼稚園 ナザレト幼稚園 塩釜カトリック幼稚園 石巻カトリック幼稚園	古川東町カトリック保育園 川渡カトリック保育園 ナザレト愛児園 小百合園（児童養護） ラ･サール･ホーム（　〃　） 暁星園（特養） あけの星荘（軽費） パルシア（特養） カリタスの家 光ヶ丘スペルマン病院 石巻ベース ドミニコの家 司祭の家
			北仙台	764			
			西仙台	216			
			東仙台	351			
			塩釜	238			
			石巻	124			
			（計）	1802			
6	5	宮城中央・南・福島北東部	元寺小路	1206	聖ウルスラ修道会 一本杉修道院 木ノ下修道院 ドミニコ女子修道会 天使園修道院 聖心会 マリアの宣教者フランシスコ修道会 三位一体修道院	聖ウルスラ学院英智 幼稚園･小中学校･高等学校 小さき花幼稚園 八木山カトリック幼稚園 大河原カトリック幼稚園 角田カトリック幼稚園 原町さゆり幼稚園	金ケ瀬カトリック保育園 亘理カトリック保育園 仙台天使園（児童養護） 聖母の家（特老） 原町ベース
			畳屋丁	226			
			一本杉	223			
			八木山	189			
			大河原	128			
			白石	73			
			角田	41			
			亘理	96			
			原町	74			
			（計）	2256			
7	3	福島北・西部	松木町	625	ｺﾝｸﾞﾚｶﾞｼｵﾝ･ド･ノートルダム修道会 花園町修道院 ドミニコ会　雪の聖母修道院 無原罪聖母宣教女会 会津若松修道院	桜の聖母短期大学 桜の聖母学院小学校 桜の聖母学院中･高等学校 桜の聖母学院幼稚園 会津若松ザベリオ学園小学校 会津若松ｻﾞﾍﾞﾘｵ学園中･高等学校 会津若松ザベリオ学園幼稚園 福島カトリック幼稚園 喜多方カトリック千草幼稚園 田島カトリック暁の星幼稚園	福島デスク
			桑折				
			野田町	194			
			喜多方	83			
			会津若松	234			
			南会津	33			
			（計）	1169			
8	3	福島南・東部	二本松	107	イエスのカリタス修道女会 白河修道院	郡山ザベリオ学園小･中学校 郡山ザベリオ学園幼稚園 二本松カトリック幼稚園 白河カトリック幼稚園 小名浜白百合幼稚園 勿来カトリック幼稚園	「もみの木」
			郡山	403			
			須賀川	30			
			白河	163			
			矢吹				
			いわき	510			
			湯本				
			小名浜				
			（計）	1213			

＊信徒数は、2,012年末現在

仙台教区地区割　一覧

地区	司祭	地域	教会	信徒数	修道院	教育施設	その他の施設
1	3	青森県西部	五所川原	49	オタワ愛徳修道女会 弘前修道院 殉教者聖ｹﾞｵﾙｷﾞｵの フランシスコ修道会 青森聖母園マリア院 藤の園マリア院 聖母被昇天修道会 青森修道院 弘前修道院	青森明の星短期大学 青森明の星中･高等学校 青森明の星短大付属幼稚園 青森藤幼稚園 聖心幼稚園 聖テレジア幼稚園 浪打カトリック幼稚園 弘前明の星幼稚園 弘前カトリック幼稚園	弘前大清水ホーム(特養) 藤の園(特養) 藤ホーム(養護) 弘前大清水希望の家 聖ヨゼフハウス 弘前大清水学園 藤聖母園(児童養護) 弘前大清水保育園 藤保育園
			黒石	20			
			弘前	313			
			本町	335			
			(松ヶ丘)				
			浪打	324			
			(計)	1041			
2	4	青森県東部・岩手県北部	大湊	83	聖ウルスラ修道会 田面木修道院 塩町修道院	八戸聖ウルスラ学院 中･高等学校 イメルダ幼稚園 大湊カトリック幼稚園 五戸カトリック幼稚園 田名部カトリック幼稚園 十和田カトリック幼稚園 野辺地カトリック幼稚園 八戸聖ウルスラ学院幼稚園 ファチマ幼稚園 三沢カトリック幼稚園	
			野辺地	12			
			十和田	106			
			(五戸)				
			三沢	63			
			八戸塩町	502			
			鮫町	172			
			久慈	39			
			二戸	20			
			(計)	997			
3	4	岩手中部	上堂	106	ベトレヘム外国宣教会本部 ﾄﾞﾐﾆｺ会ﾛｻﾞﾘｵの聖母修道院 シャルトル聖パウロ修道女会 盛岡修道院 盛岡第２修道院	盛岡白百合学園小学校 盛岡白百合学園中･高等学校 暁の星幼稚園 小百合幼稚園 光の園幼稚園 盛岡白百合学園幼稚園	宮古ベース 大槌ベース カリタス釜石 障害者自立支援かまいし
			志家	208			
			四ツ家	471			
			花巻	86			
			北上	80			
			宮古	84			
			釜石	67			
			遠野	64			
			(計)	1166			
4	4	岩手南部・宮城北部	水沢	99	殉教者聖ｹﾞｵﾙｷﾞｵの フランシスコ修道会 山目マリア院	愛心幼稚園 カトリック清心幼稚園 海の星幼稚園 気仙沼カトリック幼稚園 築館聖マリア幼稚園	一関藤保育園 米川聖マリア保育園 一関藤の園（児童養護） 大船渡地ノ森ベース 米川ベース
			一関	170			
			千厩	30			
			大船渡	187			
			築館	50			
			新生園				
			米川	34			
			気仙沼	111			
			(計)	681			

東日本大震災から3年…

～福島の今～

仙台教区「新しい創造」…第３期の取り組み

「行って、あなたも同じようにしなさい。」（ルカ10・37）これは、永遠の命を得るために「隣人を自分のように愛しなさい」とはどうすることか、『善いサマリア人』のたとえ話をされて最後にイエズス様が言われた決定的な言葉です。

福島はいまだに除染が終わらず、避難者は帰郷できる見通しも立っていません。仮設での生活も29年まで延長されました。故郷を思いながら仮設で亡くなる方も増加しています。諦めと忍耐、そして一縷の希望、それらが交錯した思いで皆毎日を送っています。

狭く不自由な仮設の生活には忍耐がいります。支援者は何とかそうした方々の心を解放してあげようとイベントを企画して訪問しています。しかし、皆と一緒にいる時は笑顔でも、夜一人になると言いようのない辛さが襲ってくると言います。心のケアが最も求められています。

支援者にも疲れが出ています。ボランティアも年々減少しています。しかし、福島の復興はまだまだ先です。働き手が少ないのです。神様、どうぞ新しい支援者、ボランティアを送ってください。

≪皆様へのお願い≫

①ボランティア活動への参加。神父様も信徒も。

②高齢者の方でボランティアを送り出す応援部隊（旅費等を工面）を作る。戻ってきたら報告会を開く。

③支援物資や支援金を送る。

④観光に来て、食べて飲んで遊んで土産を買う。（困窮している福島観光の応援のため）

⑤福島の現状を見た人は、教会で皆に伝える。

（福島デスク／柳沼千賀子）

【写真＝仮設での巾着作り】

東日本大震災犠牲者追悼と復興祈願ミサと関連行事

東日本大震災から3年目を迎えるにあたり、3月11日を中心に仙台教区では、犠牲者追悼と復興祈願のミサや関連行事が行われる。

3月9日(日)

仙台教区の全小教区で、追悼と復興を願うミサ。

3月10日(月)

午後6時より仙台司教区センター元寺小路教会大聖堂に於いて、日本カトリック司教協議会主催の犠牲者追悼と復興祈願のミサ。駐日バチカン大使と日本の司教様方が来仙。

3月11日(火)

○宮古教会、午後1時30分から、平賀徹夫司教のミサ。

○大船渡教会、午後1時30分から、諏訪榮治郎司教（高松教区）のミサ。

○釜石教会、午後1時30分から、大塚喜直司教（京都教区）のミサ。

○カリタス各ベースで、それぞれ祈りがささげられます。

3月15日(土)

「いのちの光3・15フクシマ」The Day of Option for LIFE in FUKUSHIMA

12時50分～16時 原町教会

福島原発から最も近い生活圏にあるカトリック教会から、現地の人々の声、聖書学者の声、ミサによる司祭の声に耳を傾けながら、「いのち」のあり方について共に考え、メッセージを発信します。

主催・「いのちの光3・15フクシマ」実行委員会

（事務局 TEL：0244-23-3713）

―プログラム―

12：30 受付

12：50 開催の言葉

・オリエンテーション

13：00 ①「現地の光」被災住民の声（奥村健郎）

13：30 ②「みことばの光」聖書講話（聖書学者・太田道子）

14：50 休憩

15：00 ③「神の民の光」派遣ミサ（平賀徹夫司教）

16：00 閉祭の言葉・解散

3月7日(金)～30日(日)

金・土・日 午前11時～午後2時

9日・23日は午後1時～2時まで

＝記録写真展示会＝

「東日本大震災（福島・原発事故）をうけて祈りと共に活動」3年間の記録

会場 松木町教会伝道館

主催 松木町教会

後援 カリタスジャパン・カトリック東京ボランティアセンター・コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会花園町修道院・野田町教会支援活動有志

「どんな環境においても愛を必要とする絆」

環境問題についてはいろいろな方がそれぞれの専門分野で提言されていますが、人間関係の環境がいかに深刻な問題を起こしているかということを取り上げてみたいと思います。支える人もなく、愛すること愛される体験がないと人は弱り果て病気や犯罪に陥ってしまいます。

私が関わっている死刑囚や長期服役者、外国人の置かれている環境は、貧しい家庭で支える関係の乏しさが犯罪の経緯から見えるのです。さらに刑務所の面会や手紙を通して日本の刑務所の人間意識の希薄さに失望します。罪を犯した者には懲罰をもって矯正する規則ずくめで基本的人権など不要の管理体制です。そのような環境に２０年も収容されれば出所しても激しい社会変化に適応して生きられないのが現実です。その環境で「今を生きる」ためには恨みや憎しみを捨て神の愛を知らなければなりません。

人はどんな環境にあっても愛の絆を必要とします。この地球は神の愛から始まったからです。フランシスコ教皇が説く兄弟愛をどのように生きたら、私たちは今、互いのことを心にかける「隣人」になれるのでしょうか。

地球を大事にする会　Sr　相良　なるみ

創立80周年記念行事を終えて

郡山ザベリオ学園は、カナダに本部がある無原罪聖母宣教女会のシスターが、1932年に聖マリア愛児園（のちの郡山ザベリオ学園幼稚園）を創設してから、80年を迎えました。11月15日午前には、幼小中の子どもたちと共に学園で「80周年を祝う会」を行いました。そして午後には、学園を支えてくださっている皆さまや、幼小中それぞれのお客様、同窓会、ザベリオ会、旧職員等約200名をお迎えし、学園移転跡地に建てられた「ホテルハマツ」において記念式典と祝賀会を挙行いたしました。

「80周年を祝う会」では、幼小中の子どもたちの代表とそれぞれの卒業生の代表がステージに立ち、未来に向かって「未来宣言」を発表しました。その後、記念行事として壁画用のタイルを幼小中の縦割りグループで制作しました。

「記念式典」では、福島県知事・郡山市長をはじめ仙台教区平賀司教、上智学院理事長、日本カトリック学校連合会代表、無原罪聖母宣教女会の方々をご来賓としてお迎えし、厳かに行われました。また親子三代にわたり学園に通っていただいているご家庭4組には感謝の気持ちを込めて、記念品を贈りました。

「祝賀会」では、カナダから懐かしいシスター方のビデオメッセージが届き上映された。さらに、郡山ザベリオ学園創立期や新築移転の苦労話などがテーブルスピーチとして紹介されたりして、終始和やかな雰囲気でした。途中、聖マリア幼稚園出身の根本匠復興大臣が到着し、幼稚園時代の懐かしい話をされ、会場全体が盛り上がりました。たくさんのお祝いのお言葉、祝電等いただきありがとうございました。（大堀由美子）

カンボジア・ステンミエンチャイ地区での活動報告②

元寺小路教会　小野　武

今回は、子どもたちの住んでいる「ステンミエンチャイ地区ルッセイ村」と「ごみ山生活者の一日の収入」について紹介させていただきます。

―ステンミエンチャイ地区　ルッセイ村―

子どもたちが住んでいるステンミエンチャイ地区ルッセイ村は、プノンペンの中心街から約5km離れた郊外にあります。そこには東京ドームの約3倍の広さのゴミ山があります。ゴミは、プノンペン市内から分別される集落がステンミエンチャイ地区ルッセイ村にあります。ここに住んでいる人の多くは、かつて地方で農業をしていて、灌漑用水の不足や農業技術の遅れから農業で生計を立てられず、大都市プノンペンに行けば良い仕事に就けると思い出て来た人々です。かつて日本で上野に仕事を求め上京した姿に似ています。しかし、カンボジアの農村の人々の学歴は小学校を卒業していれば良い方で、しかも農業のことしか分からない人たちです。プノンペンで仕事を探してもなかなか仕事が見つからずこの地に落ち着いた人々です。集落は、ゴミ山のすぐ近くにあります。仕事場に隣接していて、とても便利ですが悪臭とハエが群がっています。しかも、家は低湿地帯にあり高床式になって涼しい造りですが、トイレがなく、また生活排水が流れることが出来ず家周辺に溜まります。とても環境衛生面が心配な居住地域です。

―ゴミ山での収入―

集めたアルミ缶等を売っての収入は、私たちの家庭訪問での調査結果によると、一日5ドル（約500円）以下の方が97％です。日本の最低賃金時間額よりも安い収入です。物価は、多くのものが日本の十分の一です。例えば、米125円／1kg　卵は、高くて10円／1個　理髪　100円です。食事は、3食で米が主食です。ご飯にスープをかけたものか、お粥です。スープには香草が何種類とニンニクと唐辛子が入りとても辛いです。ただ、肉、魚や卵を食べる頻度が少ないので子どもたちの体格は、日本の子どもと比べると身長10㎝、体重10kg少なく、WHOでいう痩せすぎの一歩手前で、肥満児はほとんど見かけません。

次号へ続く

コリア・デル・リオで桜の記念植樹　慶長遣欧使節400年記念巡礼団

2月9日、支倉常長像のあるスペインのコリア・デル・リオ市、グワダルキビル川河畔に日本とスペインを結ぶ象徴となるような桜並木にしたいと平賀司教を団長とする巡礼団一行25名は、桜の記念植樹を行った。

植樹には、モデスト市長、ハポンさんたち、日西観光協会から6名が参加し、その後、教会でサンタ・マリア合唱団と共にミサが行われた。

「地区制度の新たなスタート」

第二地区担当司祭　佐々木博

すでに、1988年12月30日に公布した使徒的勧告『信徒の召命と使命』によって、福者教皇ヨハネ・パウロ2世は、「同じ地区にある小教区間のいろいろな協力の形が、制度的にも育てられなければなりません。（同勧告26項）」と勧告なさいました。

この度、仙台教区は、この勧告に応えるために、2014年度からあらたに『地区制度』を導入することになりました。新しい取り組みについて不安や戸惑いもあるかもしれませんが、むしろ積極的にかつ前向きにこの制度を生かしていくために、特に広い地域に対する宣教・司牧の視点でその大切な課題についてまとめてみたいと思います。

①宣教活動における協力と交流

確かに、第二バチカン公会議によって「教会は本性的に宣教者である（『宣教教令』）」ことを確認しましたが、実践的に信者一人ひとりが、同時に共同体ぐるみで宣教者に育てられることが急務です。それは、まず、各家庭において始めるべき課題と言えます。

同じ使徒的勧告『家庭―愛といのちのきずな』（1981年11月22日）で、福者教皇ヨハネ・パウロ2世は、福音宣教におけるキリスト者の家庭の役割について、次のように強調しています。「家庭は、教会のように、福音が伝えられる場であり、さらにそこから福音が広まって行く場でもなければなりません。この使命を知っている家庭では、家族全員が同時に、福音を受け入れながら一方では福音宣教しているのです。親は子どもに福音を伝えるだけでなく、子どもからも生活に深くかかわった福音を受け取ることができます。このような家庭は、近くの家庭にとって福音宣教者となります。」（同勧告52項）

とにかく、地域に対する福音宣教活動を地区内の教会同士が分かち合うことによって、いままで以上の効果が期待できます。

②地区内のカトリック諸施設や幼稚園との協力推進

地区内にある教育機関や諸施設などとの宣教における密接な協力関係を強めることができます。特に、地方の小都市にある小規模の教会は、地域に対する宣教活動は、主に幼稚園を媒介として広げていくことができます。これら諸施設や教育機関は、宣教活動における地域社会との大切な接点であることを、十分に活用することです。

③地区における信仰養成プログラムの合同企画と実施

分かち合いと交流は、豊かな力を生み出します。地区内にある諸教会が、共に信仰養成に励むことができます。つまり、各教会が、まさに開かれた共同体として、近隣の教会と交流し、共に学ぶ機会を増やすことによって、共に成長できます。

新たな希望をもって、スタートを切りたいと思います。

子どもたちの殉教碑巡礼

仙塩地区教会学校

3年目を迎えた仙塩地区教会学校「祈りのつどい」は、2月に子どもたちによる広瀬川殉教碑への巡礼を行っている。今年は2月11日（祝）、前々日に降った78年ぶりの大雪にも負けず決行。

仙塩地区教会の日曜学校・教会学校で学ぶ小中学生・高校生やその保護者、各教会のリーダーなど約30名が参加した。

参加者はまず元寺小路教会で、キリスト教伝来から迫害に至るまでの歴史を勉強した後、歩道に厚く雪の残る中を出発。広瀬川河畔の殉教碑に到着し、森田神父のご指導のもと、390年前の1624年2月22日にここで殉教したカルワリオ神父様ら殉教者たちに祈りを捧げた。

二百数十年におよぶキリシタン迫害の根拠となった、徳川幕府の1614年の禁教令からちょうど400年となる今年に、このつどいを行なえたことは、私たちの信仰の原点を確認する上でも、たいへん有意義なものとなった。

（元寺小路教会育成部　荒賀 久仁夫）

告知板

★仙台ロゴス講座

日時：2014年3月8日（土）14:00～15:30
会場：カトリック北仙台教会　信徒館
演題：信仰年・イエス・キリストとは誰か？②使徒信条 - 子 -
講師：三谷鳩子氏(西仙台教会所属)　　参加費：無料

★第22回ロゴス公開講演会

日時：2014年3月16日（日）13：30～15：30
会場：カトリック北仙台教会 信徒館
テーマ：「寅さんとイエス」ー実は意外と似ていますー
講師：米田 彰男 神父(ドミニコ会、清泉女子大学教授)
連絡先：090－2360－1408（岡田）

新刊案内

液晶画面に吸いこまれる子どもたち――ネット社会の子育て

共著者　下田博次・下田真理子／発行女子パウロ会／定価　1200円＋税

ネット社会が謳歌されている反面、これはインターネットやスマホの影響ではないか、と思われる事件も相次いで報道されています。しかし、ネット謳歌のかげりさえ見せない日本で、やっと、本書のような警鐘を鳴らす本が出版されたことは、大変喜ばしいことです。

サブタイトルに「ネット社会の子育て」とあるように、パソコン、ケータイ、スマートフォンなどの情報機器への接し方を赤ちゃんのときから、教えていかなければならないことが説かれています。思春期からでは遅すぎる、というのが著者の考えです。本書は、ただ、いけない、危ないと叫ぶだけの本ではなく、どのようにすればよいかを、具体的に教えています。

本書の強みは、著者のご夫婦がともに、メディア教育の専門家であり、そのメディア教育の指導者でもあるということです。

神の恵みとして与えられたメディアをよく使うことは、人間に与えられた使命です。危険だから使わない、という生き方ではなく、子どもの発達段階にあわせた、かしこい利用者になるために、大人である私たち一人ひとりが、知る必要があるでしょう。

「見る・聞く・嗅ぐ、触る、味わう」という感覚をよく育てましょう。

本書をすべての人に、ぜひ読んでいただきたいと思います。お母さんや学校の先生方だけでなく、すべての人に。